

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
○あいさつ ○きまり ○そうじ	□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 】 □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】 □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 C 】 年度末【 】 □授業で学んだことが振り返ることができるよう家庭学習の仕方を提示している 当初【 C 】 年度末【 】 □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ○国語ABともに、全ての領域において県・全国両方の平均を上回っている。 ○国語Bでは、目的に応じて文章構成の効果を考えたり、適切に選んだりすることに課題がある。 ○算数ABともに、全ての領域において県・全国両方の平均を上回っている。 ○算数Aでは少数の除法の計算の定着が不十分な児童がいる。 ○算数Bではグラフを利用し、読み取る力や記述する力を苦手とする児童がいる。 ○理科では生物に関する分野の理解度が高く、実験結果から考察し記述することを苦手としている。 県(3～5年) ○算数の基礎問題では3学年とも県平均と同等もしくは上回った。 ○算数活用では2学年が県平均を下回った。 ○国語では2学年において基礎、活用問題共に県平均を上回った。 ○国語では3学年とも国語の「書くこと」において県平均を下回った。 ○学年によって傾向が異なる。	【学習状況調査の結果】 ○地域の行事に参加する割合が高い。 ○宿題に取り組む児童は高いが、予習復習に取り組む割合は県と比べてやや低い。 ○平日にテレビ等のメディアに触れる時間が長い児童の割合が高い。 ○「人の役に立つ人間になりたい」に肯定的な回答をした児童の割合が高い。 ○「人が困っているときは進んで助ける」に肯定的な回答をした児童が多い。 ○平日休日共に、1時間以上の家庭学習に取り組む児童の割合は県平均より高い。 ○学校のきまりを守っていると回答した児童の割合が高い。 ○学校・地域でのあいさつに取り組んでいると回答した児童の割合が高い。 ○新聞を読むと回答した児童は少ないが、ニュースを見ると回答した児童は多い。 ○読書時間が少ない児童の割合が多い。

成果	課題
○朝学習や家庭学習の活用等を通して、現在の学習内容以外の既習事項の復習に取り組む、効果が現れている学年が多い。 ○授業公開等の校内研修の充実を図り、「めあて・まとめ」のある授業づくりに取り組み、学習内容の定着が見られてきている。 ○ペア学習やグループ学習を取り入れた授業づくりに取り組み、自分の考えを書いてまとめることがスムーズにできてきた。 ○学校全体で統一した自主学習ノートの取り組みを充実させ、家庭学習の時間や内容が改善しつつある。 ○減メディア週間や生活点検週間の取り組みをPTAと連携して定期的に取り組み、学習習慣意識に少しずつ変化がみられている。 ○中学校の生徒指導重点「あいさつ 掃除 時間を守る」とつなげた取り組みが定着している。 ○問題データベースを全学年で活用し、学習内容の定着が図れ始めた。 ○基礎的な学習内容の定着は図られつつある。	○算数では、少数の乗法や少数と整数の加法の理解など中学年の内容の定着に成果が見られるが、高学年の学習内容に課題が見られた。 ○算数Bでは、示された例に沿って考え方などを記述する問題に課題が見られた。 ○全学年を通して、どの教科でも「書くこと」に課題がある。 ○国語Bでは目的や意図に応じて文章全体の構成や引用して書くことに対して課題が大きい。 ○テレビ等の視聴時間が長い「予習・復習の取り組みに肯定的でない」児童の割合が多く、更に改善が必要である。 ○新聞等の活字に触れる児童が少ないため、問題を読みこなす力に課題があると思われる。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎学力の定着	学年末	九九テスト合格者80%以上 朝学習の充実を図り、スイッチ・オン、プリントの正答率80%	学校全体としての朝学習を定期的に見直ししながら充実を図る。データベース問題を活用して現単元以外のプリントに取り組む。全校九九検定を年に2回実施する。	1回目の九九検定は、満点は71%だが、70名全員が96点以上とることができた。朝学習の内容を統一して行った。データベースも常時活用できている。	B			
「読む」「書く」力の向上	学年末	「読む」「書く」活動の充実を図る	朝学習での視写の日に、「書くこと」に特化したプリントをデータベースから用意し、視写とプリントを交互に取り組む。授業での「書く」活動の充実を図る。読書週間等を活用した読書習慣の定着を図る。	朝学習での「書くこと」プリントを毎週金曜日に全校で一斉に取り組んでいる。視写と合わせて継続して行う。授業内での「書く」活動は十分とは言えない。読書週間の取り組みは充実し、貸出数も増加したが習慣化にも力を入れていきたい。	B			
家庭学習の定着と充実	10月 11月 2月	減メディア週間のカードの提出率80%以上	中学校の定期考査期間に、保育園にも呼びかけ地区全体で減メディアと読書や家庭学習の充実を図る。学校振り、学校振り等や読書による呼びかけとPTAと連携した啓蒙を行う。のびるノート(自主学習ノート)を玄関に掲示して内容の充実を図る。	減メディアカードの提出率は91%を達成し、自分の生活を振り返ることもしっかりできていた。PTAからも、夏休みにも、減メディア啓蒙の取り組みを行った。	A			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○中学校の定期考査期間に合わせた減メディア週間の実施を保育園にもよびかけて取り組む。 ○中学校生徒指導重点「あいさつ きまり 時間を守る」を本校の指導の重点として取り組む。	○減メディア週間、学期始めの生活点検週間の保護者への協力をよびかける。 ○個に応じた支援、体験活動の充実に向けた学校支援ボランティアのお願いする。 ○PTAとあいさつへの取り組みを連携する。